

▼フリュザクラカプセル [内]

- 【重要度】 【一般製剤名】フルキンチニブ Fruquintinib 【分類】抗悪性腫瘍剤 [キナーゼ阻害剤]
- 【単位】▼1mg・▼5mg/錠
- 【常用量】5mg/日を3週間連日+1週間休薬を1サイクルとして投与を繰り返す [適宜減量 4mg→3mg/日]
- 【用法】1日1回
- 【透析患者への投与方法】常用量 (1)
- 【保存期CKD患者への投与方法】常用量 (1)
- 【特徴】低分子抗腫瘍キナゾリンキラスのチロシンキナーゼ阻害剤で、血管内皮増殖因子受容体 (VEGFR) -1/2/3 に対して阻害作用を有する.、がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の転移性結腸・直腸癌 (mCRC) 患者を対象とした臨床試験において全生存期間 (OS) を有意に延長.
- 【主な副作用・毒性】高血圧、皮膚障害、出血、消化管穿孔、血栓塞栓症、可逆性後白質脳症症候群、下痢、蛋白尿、無力症、甲状腺機能低下症、関節痛など
- 【安全性に関する情報】高血圧クリーゼ、蛋白尿発現のおそれがあり定期的に評価 (1) 創傷治癒遅延の可能性あり、外科処置前の投与中断の必要性あり (1)
- 【吸収】食事の影響を受けない (1)
- 【F】推定値 60% (1)
- 【tmax】3～5hr (1)
- 【代謝】主にCYP3A4/5 で代謝 (1) N-脱メチル体の活性寄与は5%未満 (1)
- 【排泄】尿中未変化体排泄率 0.5% (1) 尿中回収率 60%でほぼ代謝物 (1) トランスポータの基質にならない (1)
- 【CL/F】13～15mL/min (1)
- 【t1/2】45hr (1)
- 【蛋白結合率】95% (1)
- 【Vd/F】44L/body (1) 脳内移行は10%程度で限定的 (1)
- 【MW】393.39
- 【透析性】資料なし (1) 除去されないと思われる (5)
- 【O/W 係数】Log P=3.06 [オクタノール/水系] (1)
- 【相互作用】CYP3A4 の強い誘導剤により AUC 低下 (1)
- 【肝障害患者への投与方法】
- 【小児CKD患者における報告】
- 【妊婦・授乳婦への投薬】
- 【主な臨床報告】
- 【更新日】20241007

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。